

(第3回・投資信託に対する意識調査)

団塊世代の 投資信託に対する意識調査

2007年3月5日

野村アセットマネジメント

野村アセットマネジメント株式会社(執行役社長 柴田拓美、東京都中央区日本橋一丁目12番1号)は、「団塊世代の投資信託に対する意識調査」を公表致しました。これは、弊社が2005年1月に公表した「団塊世代/シニア世代の投資信託に対する意識調査」、ならびに、2006年5月「団塊世代/団塊ジュニアの投資信託に対する意識調査」に続き、第3回目の「団塊世代の投資信託意識調査」として実施したものです。

調査の目的

- 退職期を控えている団塊世代(55~59歳、調査時点)にとって、セカンドライフにおける資産運用、投資信託に対する意識を把握する。また各年代と比較しながら、広く資産運用や投資信託に対する意識を調べることを目的としている。

調査結果の概要

- 団塊世代は、退職後のセカンドライフを自分自身の問題として現実的に捉えている。定年後の生活を支える年金に対しては、他の年代と比較して不安は低いが、セカンドライフのもう一つの礎となるべき退職金に対しては、その金額やその使途が把握・検討されていないことがあり、まだまだ準備が進んでいない様子。そのため、今後本格的に定年後の生活に備える動きが広まるものと見られる。
- 団塊世代の家計資産構成をみると、投資信託保有者については資産分散を図る姿勢がうかがわれるが、他の年代との比較では総じて見ると大きな違いが見られない。また意向者のそれは、「預貯金と国内株式」で多くを占めており、資産分散が十分になされていない様子。そのため、ライフステージに合わせた資産運用のサービスや商品が求められるものと思われる。
- 団塊世代にとって投資信託は「長期保有するもの」というイメージが強いが、長期投資の期間イメージは「6年程度」とセカンドライフの時間軸からすると短いものに留まっている。また投資信託の分配金に対しては、他の年代と比べて使っている向きが多く、必要性を高く感じている。

第1回~3回「団塊世代の意識調査」を通した課題

- 第1回「団塊世代/シニア世代の意識調査(2005)」では、「分散投資の壁」とも言える課題が見られた。すなわち、分散投資が十分に実践できていない点が浮かび上がった。第2回「団塊世代/団塊ジュニアの意識調査(2006)」では、「長期投資の壁」が課題。「長期」の時間軸が短いため、投資期間が短くなり、長期投資が実践できない点を指摘。
- 第3回「団塊世代の意識調査(2007)」では「ポートフォリオの壁」を指摘。資産分散が進んでいる面があるものの、家計の金融資産のポートフォリオに年代間に大きな違いがなく、本来年代毎に求められる資産分散が十分に図れていない点が指摘されよう。
- もっとも、これら指摘している課題は、「貯蓄から投資へ」という潮流の中で資産運用が広がっていることに伴う「課題の高度化」と理解すべきであり、これらの課題を解決すべく、投資信託の運用力の更なる向上、投信商品の提案力や投資学習の充実が求められる。また今後とも、「投資信託に対する意識調査」を継続して実施することで、個人投資家層の意識の変化や課題を把握することに努める方針である。

調査概要

(定量調査)インターネットを介したアンケート調査 (各年代別に実施。合計1200名)

- ・投資信託の保有者および意向者を対象にサンプル調査を実施。所得や資産状況による制限を設けていない。
- 30歳～69歳を対象に、投資信託保有者と意向者別に実施。意向者とは、現状では、投資信託を保有していないが、今後保有意向を有する者。なお、保有者の投資信託は、弊社の投資信託商品に限定していない。
 - ・30歳代300名(保有者150名 うち男性:88名、女性:62名、意向者150名 うち男性78名、女性72名)
 - ・40歳代300名(保有者150名 うち男性:71名、女性:79名、意向者150名 うち男性98名、女性52名)
 - ・50歳代300名(保有者150名 うち男性:82名、女性:68名、意向者150名 うち男性108名、女性42名)
 - ・60歳代300名(保有者150名 うち男性:120名、女性:30名、意向者150名 うち男性117名、女性33名)

・調査実施期間および調査方法、調査地域

・調査実施期間;2006年12月1日～12月4日。 方法;インターネット調査により実施。 地域;全国。

(参考・定性調査)グループインタビュー(48名<8グループ×2時間>)

- ・投資信託保有者および意向者の生活価値観や資産運用、投資信託に関する意識や実態、今後の意向などについて聞き取り調査を実施。
- 対象者は、投資信託保有者及び意向者。首都圏在住者とし、金融資産1千万円～1億円未満保有者。対象者の年代は、団塊ジュニア世代(30歳代)・新人類世代(40歳代)、団塊世代(50歳代)、シニア世代(60歳代)。
- ・調査実施期間;2007年2月1日～2月5日。

【本件に関するお問い合わせは、下記までお願い致します】

野村アセットマネジメント株式会社 総合企画室(担当:池田、榎本) 〒103-8260 東京都中央区日本橋1-12-1

TEL 03-3241-9764 / e-mail kouhou@nomura-am.co.jp

また弊社ウェブサイトでも、掲載しています。http://www.nomura-am.co.jp/

主な調査項目 / 論点	調査結果 / 見解
団塊世代の家計資産状況	・団塊世代の家計資産ポートフォリオをみると、投信保有者では比較的分散された資産構成となっているが、意向者では「預貯金と国内株式」で構成され、資産分散が図れていない様子がうかがわれる。
団塊世代のセカンドライフに対する意識	・団塊世代は、退職後のセカンドライフに対して心配する姿勢は他の年代と比べて低い。投資信託を保有している団塊世代は、自立した生活を目指している姿がうかがわれる。
退職金に対する意識	・退職金に対する団塊世代の対応は、半数が金額について把握しておらず、また4割程度が用途計画が未定となっている。資産運用だけでなく、退職金全体の使い方に対する意識が不足している。
分配金に対する意識	・分配金の用途について、全体として自ら再投資を行っているが、団塊世代は実際に使っている向きが多い。分配金に対する意識は、必要とする向きが8割。「利益確定のため」「運用情報を得るため」必要。
投資教育に対する意識	・投資教育については、意向者あるいは若年層ほどその必要性を感じている。その目的として、商品内容を理解することよりも、資産運用の知識習得に留まらず、将来の生活に欠かせないとの意識が高い。

調査結果から得られた団塊世代の姿

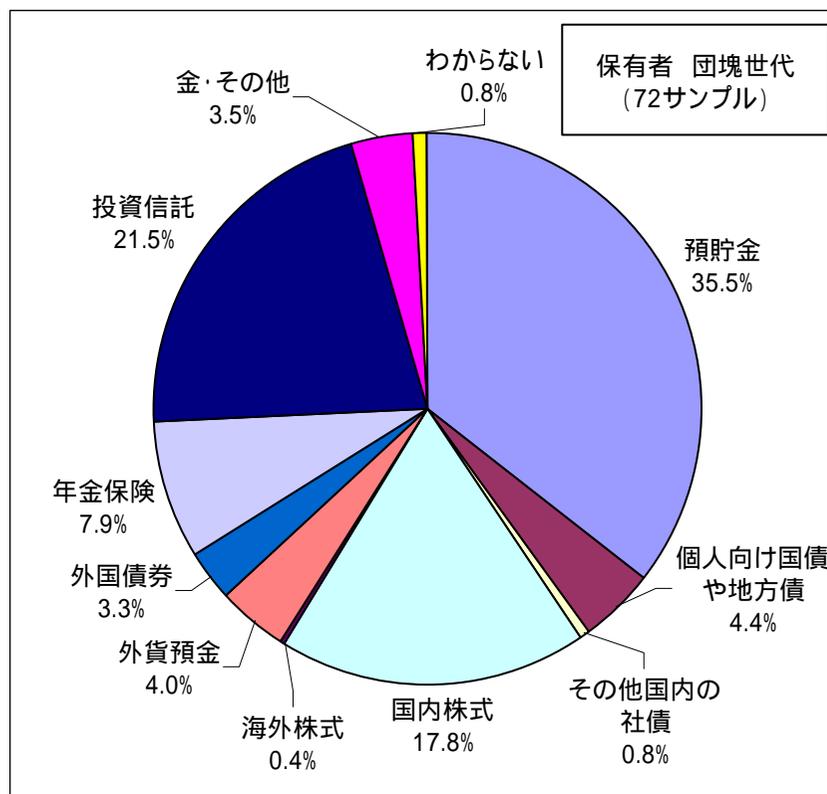
定年後の生活を支える年金に対して、団塊世代の不安は他の年代と比較して低いが、セカンドライフのもう一つの礎となるべき退職金に対しては、その金額やその用途が把握・検討されていないことがあり、まだまだ準備が進んでいない様子。団塊世代の家計資産構成を総じて見ると年代間に大きな違いが見られない。

方針	求められる施策
ポートフォリオ上のリスク分散の必要性	・ライフステージに見合った資産運用・ポートフォリオを実現すべく、投資信託商品・投資学習等を提供し、ポートフォリオ上のリスク分散に向けて提案していく必要がある。

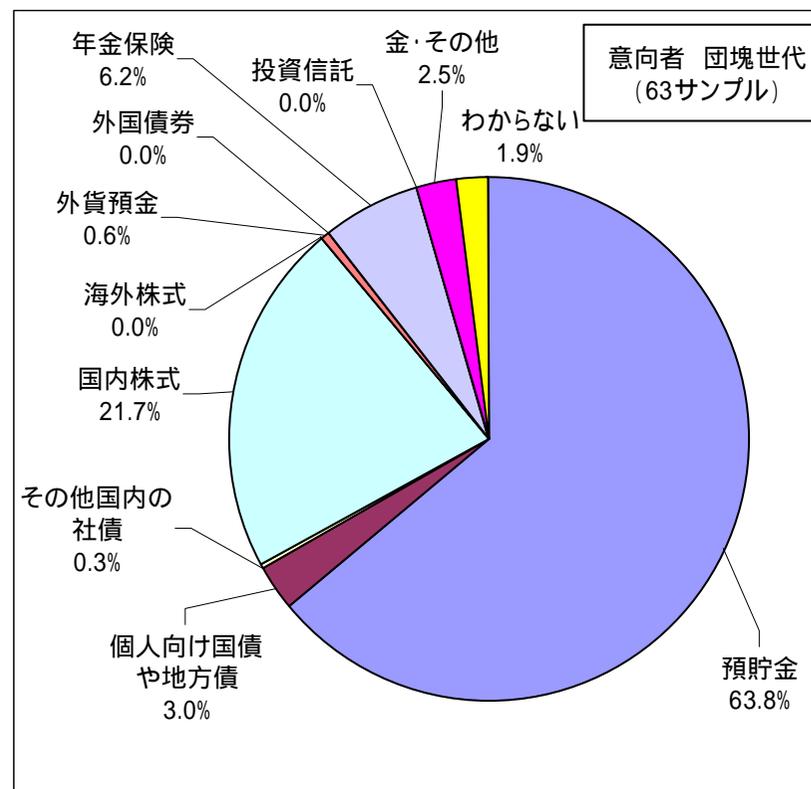
団塊世代の家計資産
状況

・団塊世代の家計資産ポートフォリオをみると、投信保有者では比較的分散された資産構成となっているが、意向者では「預貯金と国内株式」で構成され、資産分散が図れていない様子がうかがわれる。

団塊世代 / 投信保有者の家計資産ポートフォリオ



団塊世代 / 投信意向者の家計資産ポートフォリオ



(注) 保有金融資産の構成比をご自身で記入して頂いた調査方法のため、保険・年金準備金についての資産は計上されていない点には留意が必要である。

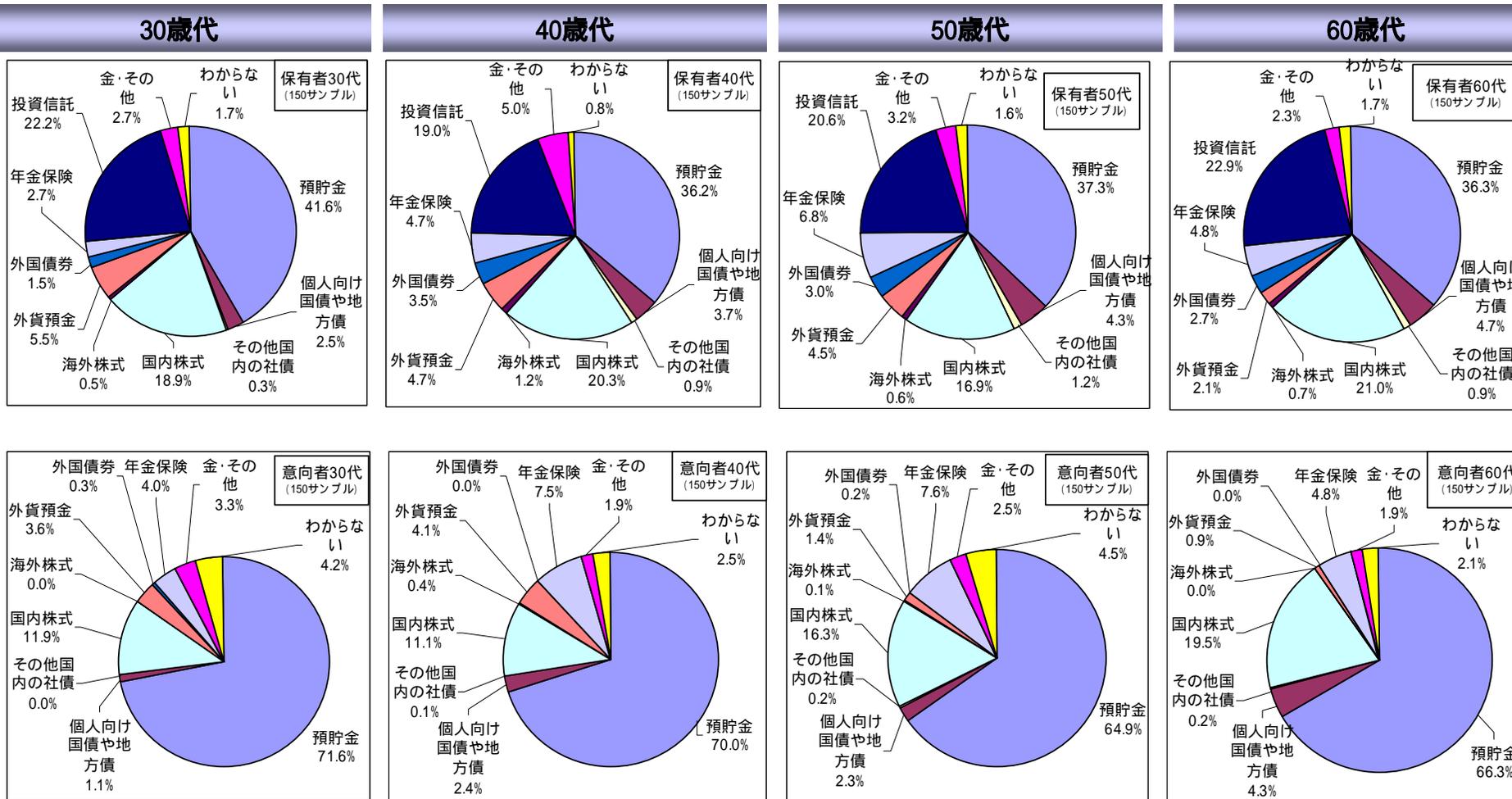
各年代の家計資産状況

各世代の
家計資産状況

・世代別投信保有者の資産構成をみると、大きな違いがなく、団塊世代固有の特性は見られない。意向者では、年代が上がるほど国内株式の保有比率が高まり、「預貯金と国内株式」となる傾向が見られる。

投資信託保有者

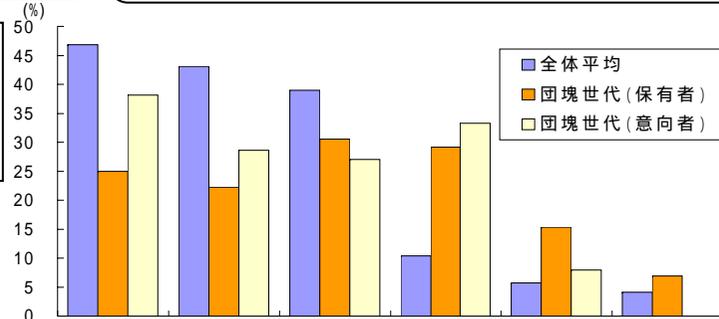
投資信託意向者



団塊世代のセカンドライフに対する意識

・団塊世代は、退職後のセカンドライフに対して心配する姿勢は他の年代と比べて低い。投資信託を保有している団塊世代は、自立した生活を目指している姿がうかがわれる。

老後に対する意識 (複数回答)



項目	総数	年金がなくてはならない	年金がなくてはならないが、自分で何とかする必要がある	年金はあてに出来ないが、自分では何とかする	年金はあてに出来ないが、何とかする	年金はあてに出来ないが、何とかする	年金はあてに出来ないが、何とかする
(30-50代)							
全体	900	46.8	43.1	39.0	10.4	5.7	4.1
< 投資保有有無 × 年代 >							
保有者(計)	450	41.6	38.9	40.4	11.1	8.7	4.0
30代	150	54.7	48.0	44.7	2.7	7.3	4.0
40代	150	39.3	34.7	44.0	8.7	5.3	4.7
50代	150	30.7	34.0	32.7	22.0	13.3	3.3
60代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
団塊 Jr(30~34才)	58	53.4	55.2	44.8	5.2	3.4	8.6
団塊(55~59才)	72	25.0	22.2	30.6	29.2	15.3	6.9
保有意向者(計)	450	52.0	47.3	37.6	9.8	2.7	4.2
30代	150	64.0	58.0	45.3	2.0	2.0	3.3
40代	150	50.0	50.0	38.7	6.7	0.7	6.7
50代	150	42.0	34.0	28.7	20.7	5.3	2.7
60代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
団塊 Jr(30~34才)	79	65.8	51.9	49.4	3.8	3.8	2.5
団塊(55~59才)	63	38.1	28.6	27.0	33.3	7.9	0.0

(注) 赤枠は特徴が現れている項目として示している。以下同様。

前回調査(第2回2006/1月調査)との比較

	総数	年金がなくてはならない	年金がなくてはならないが、自分で何とかする必要がある	年金はあてに出来ないが、自分では何とかする	年金はあてに出来ないが、何とかする	年金はあてに出来ないが、何とかする	年金はあてに出来ないが、何とかする
保有者(計)	450	41.6	38.9	40.4	11.1	8.7	4.0
団塊 Jr(30~34才)	58	53.4	55.2	44.8	5.2	3.4	8.6
団塊(55~59才)	72	25.0	22.2	30.6	29.2	15.3	6.9
(第2回2006/1調査)							
全体	1000	29.4	27.8	41.3	20.2	10.4	4.2
団塊 Jr(30~34才)	125	40.8	40.0	40.8	8.0	6.4	5.6
団塊(55~59才)	125	23.2	19.2	44.0	28.8	16.0	1.6

(注) 第2回調査(2006/1調査)は、投資信託保有者を対象としている。以下同。

団塊世代は、「年金生活」に対して「心配」だとする向きが他の現役世代と比べて低い。徐々に見えてきたセカンドライフを現実的なものと捉えているものと見られる。

団塊世代のうち、投資信託意向者では年金に対して「心配」「なんとか暮らせる」との姿勢があり、年金制度に依存した姿勢がうかがわれるが、保有者では自立した生活を目指し、セカンドライフを楽しみにしている面も見られる。

団塊世代の退職金
に対する意識

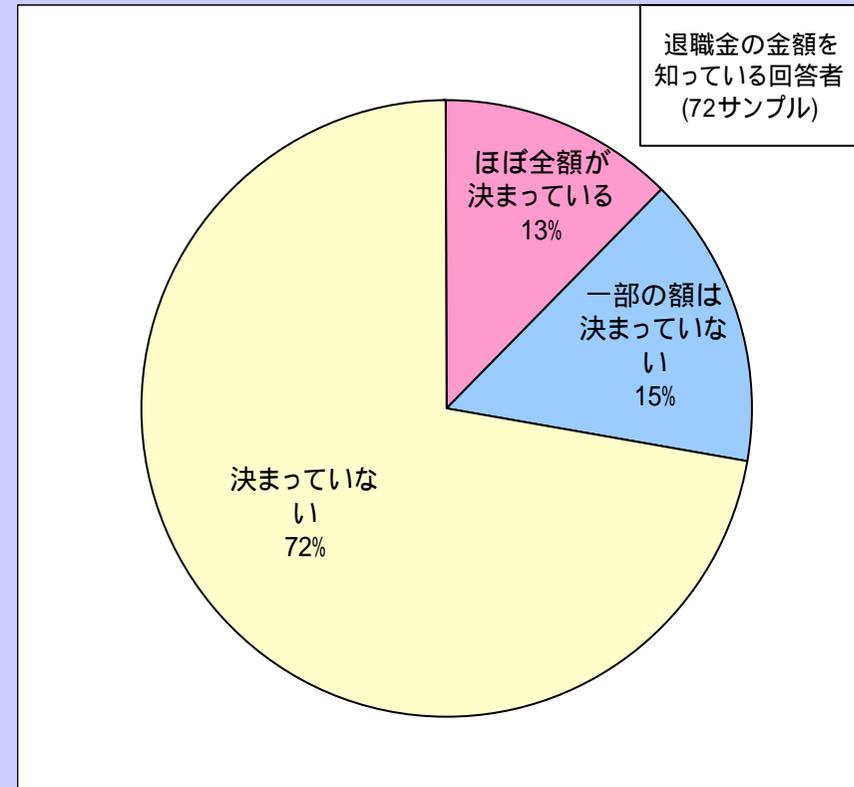
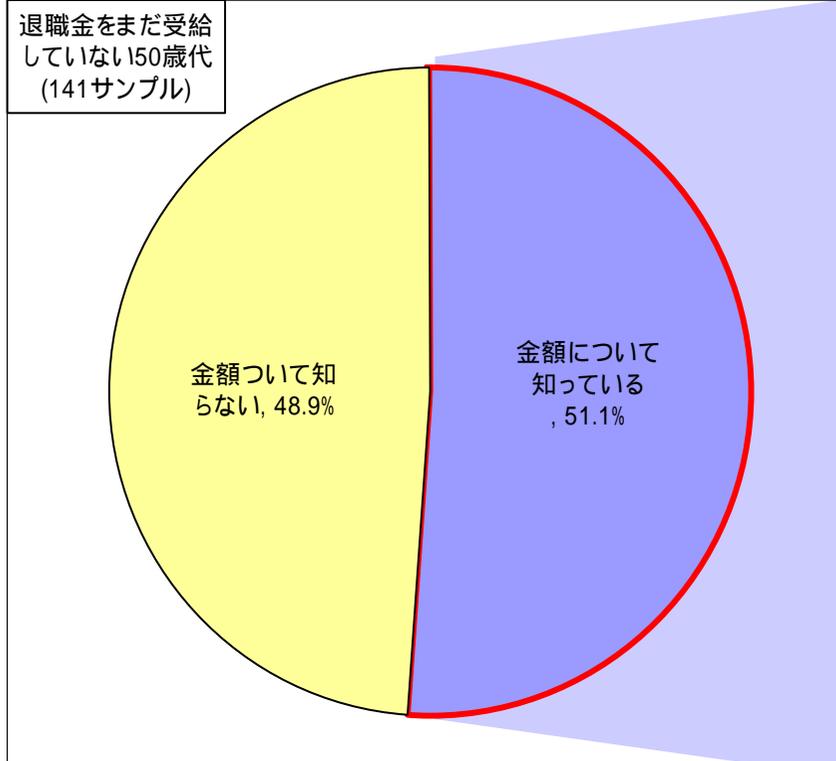
・退職金に対する団塊世代の対応は、半数が金額について把握していない。把握している向きでも、7割が用途計画は未定。資産運用だけでなく、退職金全体の使い方に対する情報が必要と思われる。

退職金に対する意識

(退職金をまだ受給していない50歳代)

退職金の金額について知っているとの回答者の用途計画

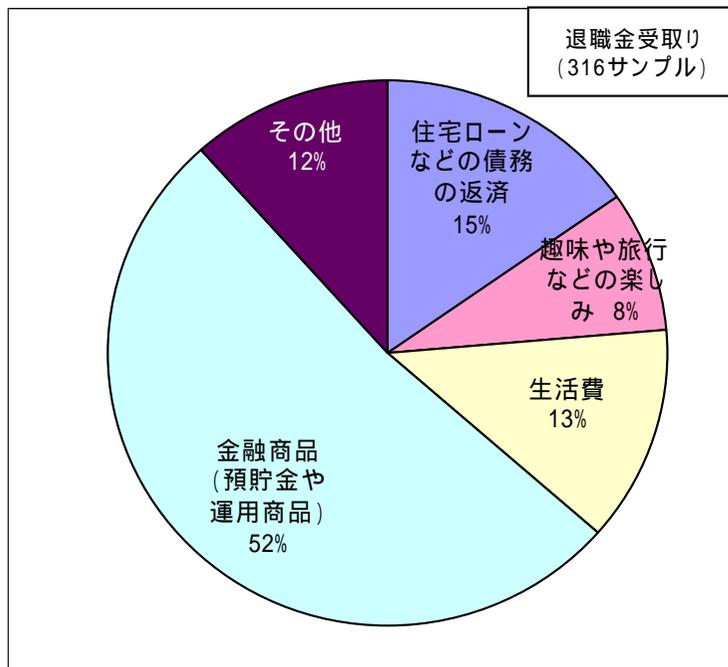
(退職金をまだ受給していない50歳代)



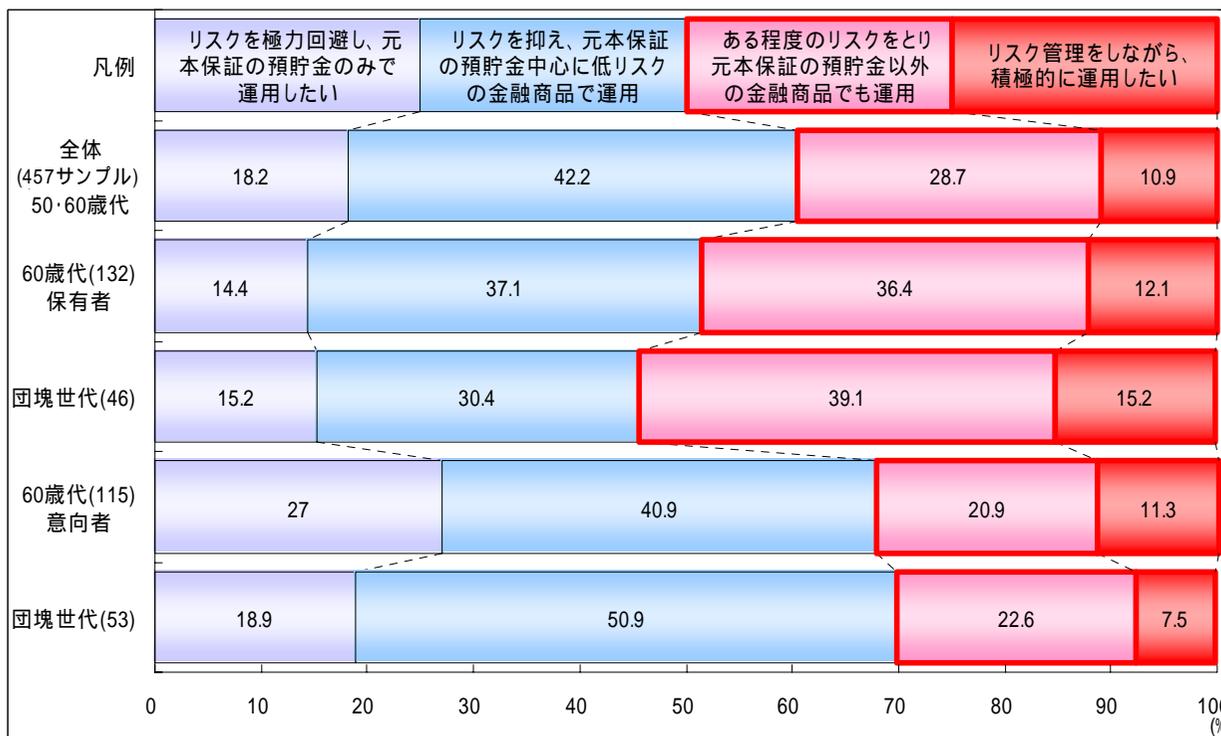
退職金に対する意識

・既に退職金を受給した方々の退職金使途状況についてみると、全体では半分程度が趣味や生活、住宅ローンの返済に充て、残り半分について資産運用などの金融商品に充てている。

退職金の使途状況 / 使い方の割合
(退職金を受け取られた50/60歳代)



退職金運用に対する意識 (50/60歳代)



すでに退職金を受給した方の使途状況を見ると、概ね半分が趣味や生活、ローン返済に充てている。

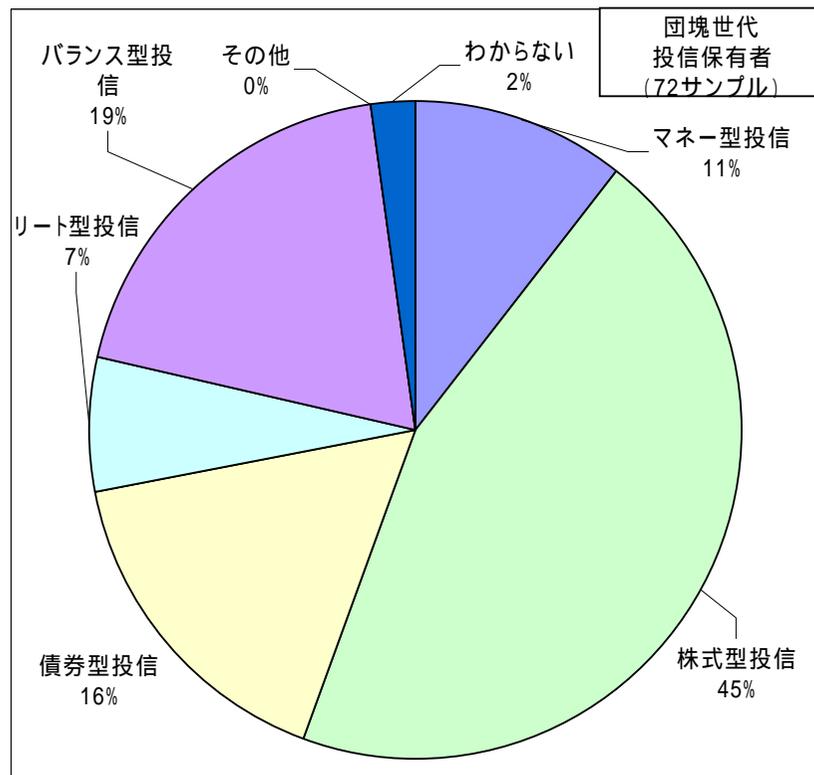
50・60歳代を対象とした退職金運用に対する意識は、総じて慎重な姿勢にある。もっとも、団塊世代の投信保有者では「ある程度リスクを取る」「積極的に運用」とで半数を越えており、投資信託の投資経験を活かし資産運用の関心が高いものと思われる。

団塊世代の投資信託保有状況

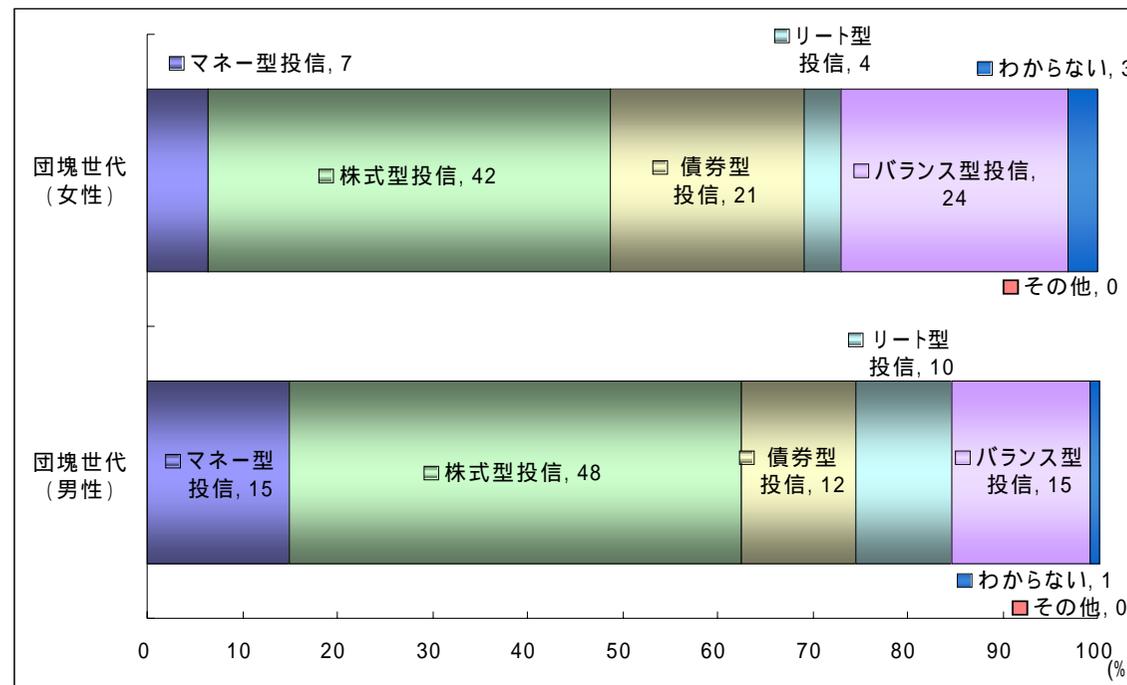
団塊世代の投資信託保有構造

・団塊世代の投資信託運用では、債券型投信よりも、株式型投信が中心となっている。男女別にみると、男性ではリート型が、女性では債券型・バランス型投信の構成比が比較的高い。

団塊世代 / 投資信託保有構造 (投信保有総額に対するタイプ別内訳)



団塊世代 / 投資信託保有構造 (男女別)



(注)ここでのタイプ別投信は、以下の定義を提示し、回答頂いた。
 マネー型投信(MMF, MRF)/株式型投信(国内外の株式に対して投資する投信)/債券型(国内外の債券に対して投資する投信)/リート型(不動産に対して投資する投信)/バランス型(国内外の債券や株式、リートなどを組み合わせた投信)

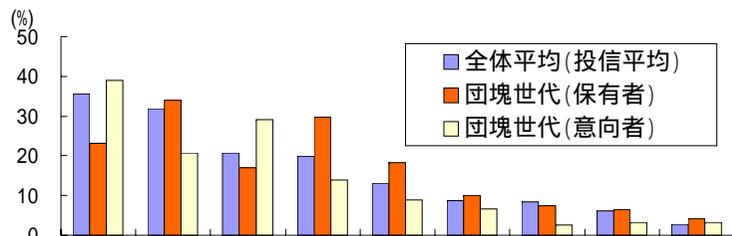
団塊世代の投信保有構造(アンケート調査、投信保有総額に対するタイプ別内訳)を見ると、株式型投資信託が半分程度占めており、債券型投信とバランス型投信とで、ほぼ同じ割合となっている。男女別にみると、やや違いが見られる。男性ではリート型が、女性では債券・バランス型が比較的多い。

投資信託に対するイメージ

投資信託に対するイメージ

・団塊世代にとって投資信託は、長期保有の対象としている。意向者と比べた保有者のイメージは、「利回りがよい」「リスクが大きい」「専門知識は知らない」としている。

投資信託・金融商品に対するイメージ
(複数回答)



前回調査(第2回2006/1月調査)との比較

	総数	購入知識がないと	リスクが大きい	商品内容が分からない	の長期保有するも	利回りがよい	できる少額でも購入	きなくすぐに解約で	安定している	利回りが悪い
(第3回2006/12調査)										
保有者(計)	600	28.8	32.3	14.5	25.9	15.2	12.2	9.4	9.0	3.1
団塊Jr(30~34才)	150	34.4	32.1	14.7	26.8	16.0	12.5	12.3	9.5	2.8
団塊(55~59才)	150	27.6	33.2	13.4	24.5	13.2	15.9	10.8	10.7	2.4
(第2回2006/1月調査)										
全体	1000	28.9	32.7	5.0	44.8	38.4	19.8	21.4	8.8	3.7
団塊Jr(30~34才)	125	34.4	28.8	5.6	56.0	39.2	28.0	27.2	14.4	1.6
団塊(55~59才)	125	23.2	40.0	2.4	42.4	40.8	24.0	18.4	6.4	1.6

(注)第2回調査(2006/1月調査)は、投資信託保有者を対象としている。

団塊世代の投資信託のイメージについて、保有する前に思っていたよりも「利回りがいい」「リスクが大きい」と感じている。特に、「知識がないと購入できない」とのイメージは、実際に購入すると大幅に低下しており、思っていたほど知識が要求されるわけではないと感じている様子。ただし長期保有するものだとも捉えている。また商品内容についても同様に、保有後には理解が進んでいる姿がうかがわれる。

	総数	購入知識がないと	リスクが大きい	商品内容が分からない	の長期保有する	利回りがよい	できる少額でも購入	きなくすぐに解約で	安定している	利回りが悪い
投資信託平均										
全体	1200	35.6	31.8	20.7	19.9	13.1	8.7	8.4	6.2	2.8
保有者(計)	600	28.8	32.3	14.5	25.9	15.2	12.2	9.4	9.0	3.1
30代	150	34.4	32.1	14.7	26.8	16.0	12.5	12.3	9.5	2.8
40代	150	27.6	33.2	13.4	24.5	13.2	15.9	10.8	10.7	2.4
50代	150	27.9	32.1	15.3	26.5	16.1	11.3	6.8	7.3	3.5
60代	150	25.5	31.7	14.5	25.9	15.3	9.1	7.9	8.8	3.7
団塊Jr(30~34才)	58	40.3	27.2	12.4	26.9	16.5	16.9	15.5	10.0	2.7
団塊(55~59才)	72	23.1	33.9	16.9	29.7	18.3	10.0	7.5	6.4	4.2
保有意向者(計)	600	42.3	31.3	27.0	13.8	11.0	5.2	7.4	3.3	2.4
30代	150	52.3	37.1	22.9	15.9	14.3	5.2	8.8	2.8	1.5
40代	150	39.5	32.9	29.2	12.9	11.1	4.0	8.1	2.4	2.4
50代	150	41.6	30.7	30.7	10.4	8.4	4.8	5.5	2.9	2.5
60代	150	35.7	24.4	25.2	16.0	10.4	6.7	7.1	5.1	3.2
団塊Jr(30~34才)	79	48.8	34.2	25.3	13.2	9.9	4.6	6.3	3.5	1.3
団塊(55~59才)	63	39.1	20.6	29.2	14.0	8.9	6.7	2.6	3.2	3.2

長期投資に対する意識

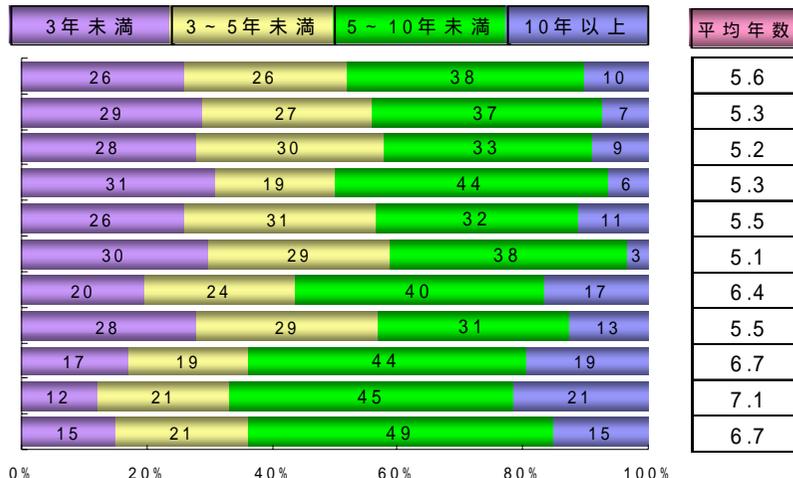
・団塊世代の長期投資に対する意識は6年超であるが、セカンドライフとの比較では短い。年代別にみると、女性の時間軸が年代とともに長くなる傾向がある一方で、若年層ではより短い。

長期投資の期間イメージ

【保有者】		N
全体		600
性 × 年代別	男性(計)	361
	30代	88
	40代	71
	50代	82
	60代	120
	女性(計)	239
	30代	62
	40代	79
50代	68	
60代	30	



【意向者】		N
全体		600
性 × 年代別	男性(計)	401
	30代	78
	40代	98
	50代	108
	60代	117
	女性(計)	199
	30代	72
	40代	52
50代	42	
60代	33	



【長期投資のイメージ】

長期投資について期間のイメージについて聞くと、全体で6年程度。団塊世代層(50歳代)では5年以上とする向きが過半数であるが、平均年数は6年程度とセカンドライフと比較して短い。

・女性についてみると、年代が上がるとともに、時間軸も長くなる傾向がある。背景には、長いセカンドライフを意識しているものと見られる。

・30歳代の長期投資の期間イメージは短い。背景には先々のライフイベントが数多く、先が見通せていない様子が見られる。

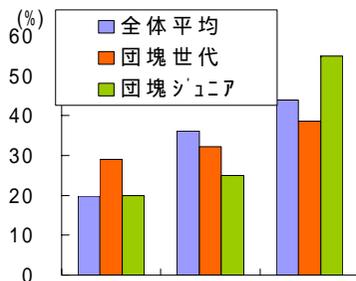
・40歳代になると概ね時間軸が長くなる傾向が見られるが、これはライフステージ上、生活が安定することで、先行きのことが見通せることが遠因していると考えられる。

・50歳代の男性では、定年退職後の生活が見通せなくなり、長期の概念が短期化するものと見られる。

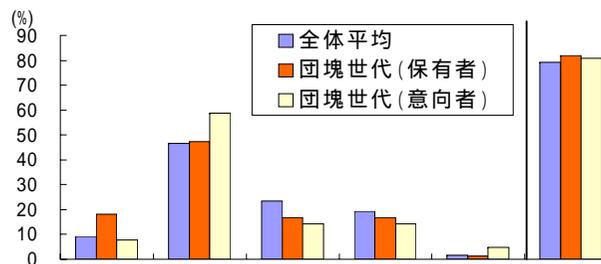
分配金に対する意識

・分配金の用途について、全体として自ら再投資を行っているが、団塊世代は実際に使っている向きが多い。分配金に対する意識は、必要とする向きが8割。「利益確定のため」「運用情報を得るため」必要。

分配金の用途状況 (分配金を受け取っている方を対象)



分配金に対する意識



	総数	いるの生活費・年金・小遣として使っている (%)	いが、使わずに特段の使い道はない (%)	いる使わずに再投資している (%)
全体	425	19.8	36.2	44.0
<年代>				
30代	98	19.4	23.5	57.1
40代	99	9.1	34.3	56.6
50代	120	23.3	41.7	35.0
60代	108	25.9	43.5	30.6
団塊 Jr(30~34才)	40	20.0	25.0	55.0
団塊 (55~59才)	62	29.0	32.3	38.7
<世帯年収>				
400万円未満	94	29.8	42.6	27.7
400~600万円未満	88	23.9	35.2	40.9
600~1000万円未満	149	14.8	36.9	48.3
1000万円以上	71	15.5	26.8	57.7
<投信購入チャネル>				
証券会社	175	14.9	36.0	49.1
銀行	171	26.9	41.5	31.6
ネット証券/バンク	71	15.5	19.7	64.8

	総数	使うためにも必要だ (%)	だ利益確定のために必要 (%)	運用状況を知る上で必要だ (%)	回く、分配的に再投資は必要ではない (%)	ならもたなければならぬ (%)	必要度(計) (%)
全体	1200	9.2	46.6	23.4	19.3	1.5	79.2
<投信保有有無×年代>							
保有者(計)	600	10.7	43.5	20.7	24.0	1.2	74.9
30代	150	12.0	38.0	21.3	28.7	0.0	71.3
40代	150	6.0	41.3	24.0	26.7	2.0	71.3
50代	150	11.3	48.0	22.7	16.7	1.3	82.0
60代	150	13.3	46.7	14.7	24.0	1.3	74.7
団塊 Jr(30~34才)	58	13.8	36.2	15.5	34.5	0.0	65.5
団塊 (55~59才)	72	18.1	47.2	16.7	16.7	1.4	82.0
保有意向者(計)	600	7.7	49.7	26.2	14.7	1.8	83.6
30代	150	7.3	49.3	30.7	12.0	0.7	87.3
40代	150	6.7	48.0	25.3	18.7	1.3	80.0
50代	150	6.0	53.3	22.7	14.0	4.0	82.0
60代	150	10.7	48.0	26.0	14.0	1.3	84.7
団塊 Jr(30~34才)	79	6.3	51.9	29.1	11.4	1.3	87.3
団塊 (55~59才)	63	7.9	58.7	14.3	14.3	4.8	80.9

【分配金の用途】

総じて見ると、「使わずに再投資」「貯めている」との割合が高い。再投資を自ら行うことで、実感を得ている可能性がある。また団塊世代は他の年代と比べて、分配金を使っている向きが多い。

【分配金に対する意識】

必要だとする向きが8割にも達している(前回調査は、7割弱)。必要とする理由については、「利益確定のため」が多く、使うための必要性は低い。また「運用状況を知る上で必要」とする向きも2割程度あり、単に経済的な効用だけでなく、情報を得ることでの投資の安心感につながっているものと推察される。なお、利益からの分配金に対する課税が、現行の減税措置である税率10%から本来の20%になった場合においては、分配金の必要性は低下する傾向が見られる。

投資教育に対する意識

・投資教育については、投信意向者あるいは若年層ほどその必要性を感じている。その目的として、商品内容を理解することよりも、資産運用の知識習得だけでなく、将来の生活に欠かせないとの意識が高い。

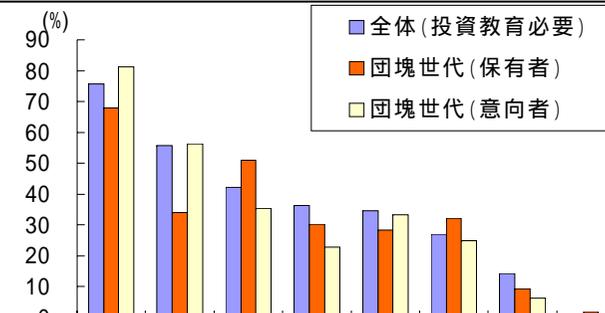
投資教育の必要性

	総数	学びたい	学びたいとは思わない
全体	1200	80.0	20.0
< 投信保有有無 × 年代 >			
保有者(計)	600	76.7	23.3
30代	150	82.0	18.0
40代	150	80.7	19.3
50代	150	78.7	21.3
60代	150	65.3	34.7
団塊Jr(30~34才)	58	87.9	12.1
団塊(55~59才)	72	73.6	26.4
保有意向者(計)	600	83.3	16.7
30代	150	90.7	9.3
40代	150	87.3	12.7
50代	150	83.3	16.7
60代	150	72.0	28.0
団塊Jr(30~34才)	79	87.3	12.7
団塊(55~59才)	63	76.2	23.8

投資教育の目的(複数回答) (学びたいとした方)

総数	た資産運用の知識を高め	か老後や将来の生活に欠	か商品について知りたい	る経済や市場のことを知	その他	
全体	960	83.5	52.3	36.8	35.0	0.2
< 投信保有有無 × 年代 >						
保有者(計)	460	86.5	50.2	33.0	38.5	0.4
30代	123	92.7	54.5	40.7	51.2	0.8
40代	121	80.2	49.6	30.6	38.0	0.0
50代	118	89.0	46.6	37.3	33.9	0.8
60代	98	83.7	50.0	21.4	28.6	0.0
団塊Jr(30~34才)	51	92.2	52.9	47.1	56.9	2.0
団塊(55~59才)	53	90.6	52.8	37.7	37.7	0.0
保有意向者(計)	500	80.8	54.2	40.2	31.8	0.0
30代	136	86.8	51.5	50.0	44.9	0.0
40代	131	84.0	51.1	45.8	29.8	0.0
50代	125	77.6	58.4	35.2	26.4	0.0
60代	108	73.1	56.5	26.9	24.1	0.0
団塊Jr(30~34才)	69	88.4	47.8	43.5	46.4	0.0
団塊(55~59才)	48	87.5	56.3	29.2	33.3	0.0

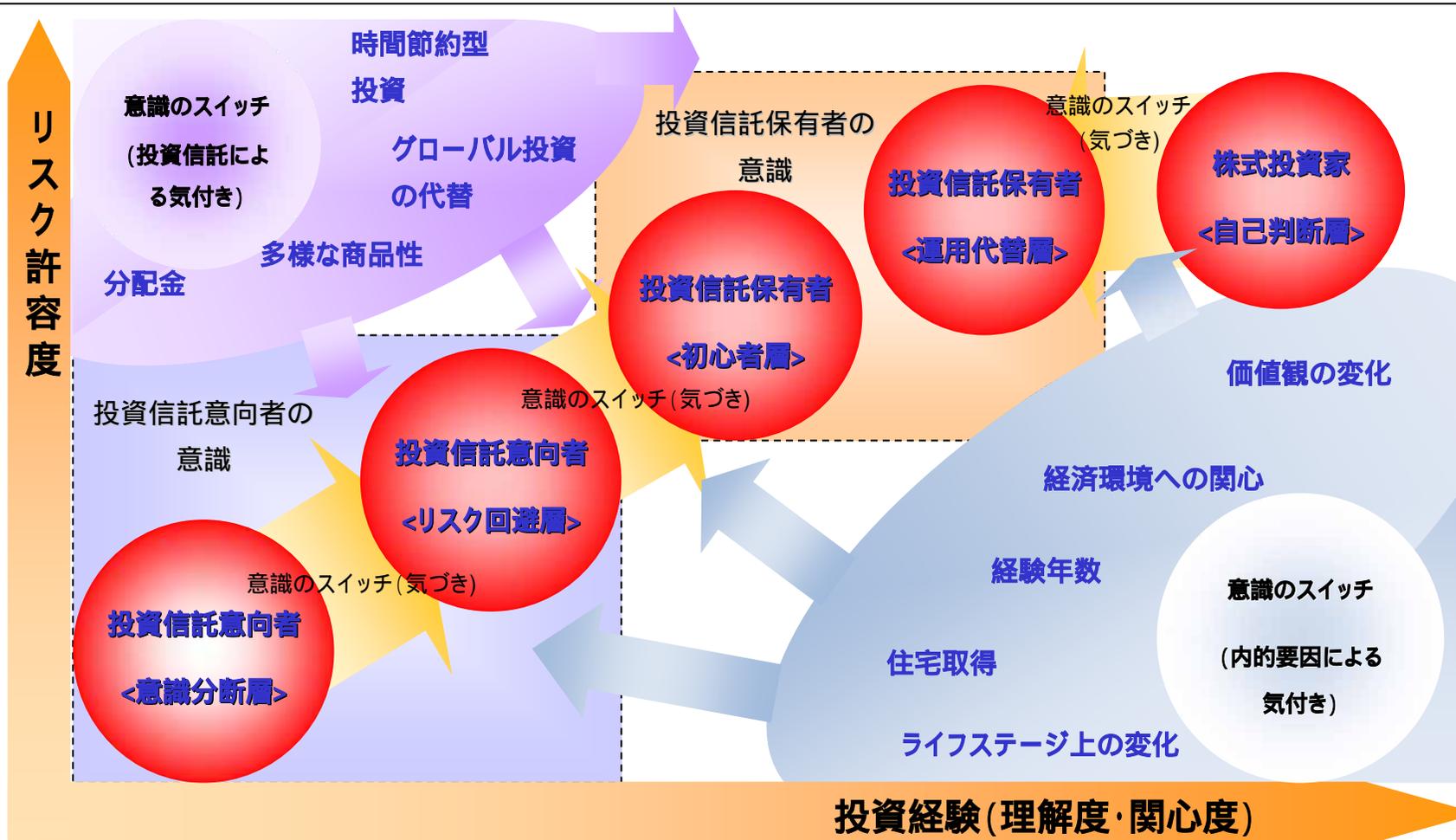
投資教育の場 (複数回答)



	総数	インターネットサイト	資料(パンフレット)	セミナー	雑誌	書籍	金融機関の窓口	マンガ	その他
全体	960	75.7	55.8	42.3	36.4	34.7	27.0	14.2	0.4
< 投信保有有無 × 年代 >									
保有者(計)	460	71.3	49.1	48.5	37.4	33.3	27.2	13.5	0.4
30代	123	75.6	52.0	48.8	56.1	45.5	24.4	26.0	0.0
40代	121	75.2	47.1	44.6	39.7	34.7	28.9	14.9	0.0
50代	118	70.3	46.6	48.3	33.9	31.4	28.8	7.6	0.8
60代	98	62.2	51.0	53.1	15.3	18.4	26.5	3.1	1.0
団塊Jr(30~34才)	51	86.3	43.1	62.7	56.9	49.0	25.5	29.4	0.0
団塊(55~59才)	53	67.9	34.0	50.9	30.2	28.3	32.1	9.4	1.9
保有意向者(計)	500	79.8	62.0	36.6	35.4	36.0	26.8	14.8	0.4
30代	136	85.3	63.2	34.6	48.5	46.3	29.4	27.2	0.7
40代	131	77.9	64.1	44.3	41.2	37.4	31.3	16.0	0.0
50代	125	80.0	60.0	34.4	24.0	31.2	23.2	9.6	0.8
60代	108	75.0	60.2	32.4	25.0	26.9	22.2	3.7	0.0
団塊Jr(30~34才)	69	82.6	68.1	36.2	53.6	49.3	26.1	27.5	0.0
団塊(55~59才)	48	81.3	56.3	35.4	22.9	33.3	25.0	6.3	0.0

投資信託意向者と保有者の意識構造～グループインタビューから得られた顧客の姿

- 投資信託意向者には、「意識分断層」と「リスク回避層」の2つのタイプがある。投資信託は、比較対象外であったり、株式と同様にリスクが高いものと分類され、意識の外に置かれている。
- 投資信託保有者には、大きく分けると「初心者・初級者層」と「運用代替層」の2つのタイプがある。投資信託は、資産分散の必要性からや投資の代替手段として位置づけられている。ただし海外資産への分散が主流になっている。



投資信託意向者 <意識分断層>

意識構造 (仮説)

・「株式」「投信」「外貨預金」「預貯金」について比較や整理もされておらず、意識が分断されている。ただし「投資」といえば「株式」なので、資産構成は「預貯金」と「株式」の構図が出来上がっている。

意向者モニターの声

「ボーナスは年2回郵便局の定額にしている。今までは10年で入れていたけれど、昨年暮れに利率が上がってきたので短期の方が良いと1年にした」(32歳女性)
定額貯金の枠内で金利や預入期間で選択しており、他の金融商品と比較検討されていない。
「株式は自分の小遣いを増やすためにやっている。半年で売り買いしている。自分が目指している利益が出ると売る。投資信託の内容がよく分からない」(48歳男性)
株式投資の経験分野に留まる。他の投資には無関心。

投資信託意向者 <リスク回避層>

意識構造 (仮説)

・超低金利を背景に資産クラスを比較検討する姿勢がある。ただし「預貯金」と「株式」の間において、「外貨預金」は「預金」側に、「投資信託」はリスクの高い「株式」側に位置づけている様子。

意向者モニターの声

「投資信託は株の一種。庶民が買うのは怖いと思っていた」(32歳女性)、「株は分からないし、怖い」(30歳女性)
投資信託の位置取りについて、元本保証ではないという認識の下で、株式と類似したものと分類し、投資信託を敬遠している。
「外貨の豪ドルを持っていて儲かっている。海外に目を向けている」(63歳女性)
最近の成功体験により、為替リスクに対する許容度が上がっている。また、外貨預金と外貨MMFとの比較検討がなされていない。

投資信託保有者 <初心者層>

意識構造 (仮説)

・投資信託を預貯金や株式などの金融商品と比較する中で、投資信託の多様な商品の中から、安定感を想起させるバランス型投信を「安全・安定している預貯金」に近いイメージとして位置づけている。

保有者モニターの声

「株と投資信託は違うモノ。自分は株には向いていないけれど、預貯金金利よりも投資信託の方が多少はいい。預貯金に置いておくよりもと思って投資信託にしている」(48歳女性)
「これからする時はバランス型が良い」(45歳男性)、「バランス型は入門編。バランス型だけでは楽しみがない」(53歳女性)
預貯金とは元本保証ではない点において違いを認識しているが、多様な投資信託の商品性のうちバランス型投資信託の安定感から、比較的預金に近いイメージを持っている。また投資信託を始めてみると、その良さや他のリスクの高い投信商品に気づきが見られる。

投資信託保有者 <運用代替層>

意識構造 (仮説)

・投資信託について、投資を委託する仕組みをメリットとして捉えている。株式投資に対しては「時間節約型」の代替手段として、また海外投資の代替手段として投資信託が位置づけられている。

保有者モニターの声

「投資信託は任せられて、株よりも時間を取られないので投資信託をやっている」(36歳女性)、「サラリーマンはデイトレードが出来ない。デイトレードをしないと儲からない。だから代行して買った方が良い」(50歳男性)
投資信託が株式投資を代替する背景には、「時間」を買う姿勢が見られる。「時間節約型」投資の仕組みとして認知されている。
「株は10年前からしているけれども、投資信託は2年前。インドや中国に注目を集めてきたので投資信託をしだした」(49歳男性)
個人では距離感を感じている海外株投資について、投資信託を代替活用している。新興国株投信に対する期待が大きい。